

相生山緑地オアシスの森くらぶ ニュースレター

34号

2009.1.24 発行

発行/相生山緑地オアシスの森くらぶ編集委員会 発行人/大館 学 編集長/近藤 真史

INDEX

【本号掲載分の活動】

- 7月26日(土)… 森の調査 / 定例活動
- 8月23日(土)… クラフト・巣箱づくり / 定例活動
- 9月27日(土)… 柴刈り大会・いのちの谷整備 / 定例活動
- 10月25日(土)… 第10回どんぐり祭り / 定例活動
- 11月9日(日)… 巣箱かけ / 特別活動
- 11月22日(土)… 竹林の整備 / 定例活動
- 11月29日(土)… 天白・もりのフォーラム協働事業～COP天白「生物多様性を学ぼう」
- 12月27日(土)… 正月準備 & 梅の剪定 / 定例活動

10月定例活動

第10回どんぐり祭り



地域の人たちに森と親しんでもらう場を提供しようということで、くらぶ設立当初から始められたどんぐり祭りも、めでたく10回目（前年が何と大雨で

中止だったため、ホントは9回目）を迎えることができました。

今年は天候もほどよく、朝から多くの親子連れなどに集ってもらい、盛況なイベントになりました。

恒例の木登り体験や八事の蝶々、クラフト等々に加え、今回は“どんぐりから育てる森づくり”という新たな企画を行いました。これは、当日拾ったどんぐりをポッドに植え、自宅に持ち帰って育ててもらい、3～4年後の祭りで、育った苗木を森の中に返そうというもので、これに先立ち、自分のどんぐりに愛着を持ってもらおうと、久々にどんぐりの背比べも行いました。

村田さん手作りの木製ノギス型計測

器もあり、背比べは多くの子もたち大好評でしたが、苗木づくりは持ち帰りの煩わしさもあってか、参加はそれほど多くありませんでした。それでも、我がくらぶのどんぐり博士、真弓さんの指導のもと、準備しておいた竹のポッドにビートルアパートの腐葉土を詰め、自分たちの拾ったどんぐりを植え付けました。

かくいう私目も、自宅で水やりしながら、マイどんぐりの生長を見守っております。（近藤 真）



植え付けから約2ヶ月のマイどんぐり

天白・もりのフォーラム協働事業 COP天白「生物多様性を学ぼう」

今年度から新しく始まった「天白・もりのフォーラム」の協働事業、区役所まちづくり推進室が参加者を募り、天白・もりのフォーラム構成団体のフィールドを一日で複数箇所回って自然体験を楽しんでもらう企画です。

第1回は、森くらぶと平針探鳥会が担当で、天白エコアンサンブルも演奏で参加するという贅沢な催しです。

11月29日（土）午前10時過ぎにバスに乗ってオアシスの森を訪れた親子連れから高齢の方まで26名の参加者。集いの広場での説明の後、真弓・森・大館の3班に分かれて山根口近くの竹

林で竹の除伐作業を行いました。この日は暖かくしばらくすると汗ばんでくる中、各々竹を切り倒しから片付けまで熱心に取り組みました。比較的作業に慣れた人が多く、短い時間のわりにかなりの作業量がこなせました。

昼前には、朝から竹炭焼きをしている村田・河野班に合流し、竹炭の説明と炭材作りも少し行い、先週収穫したサツマイモで焼き芋を振る舞いました。昼ご飯は集いの広場で、これも朝から女性陣が準備した森くらぶ自慢のトン汁を食べながら、天白エコアンサンブルの生演奏を聞くという優雅な一日で

した。朝早くから準備・作業に取り組み、片づけまで協力していただいた皆さんありがとうございました。ちなみに「COP天白」は、「COP10を天白で楽しもう。」との想いで作った愛称で、この趣旨に賛同する方はどなたでも自由に使うことができます。（大館）



▲竹炭の材料づくりのようす

7月定例活動

森の調査



蒸し暑い7月の定例活動は、毎年恒例の森の調査である。この日は、オアシスの森で最近広がっている「カシノナガキクイムシ被害木」を調査することとなった。カシノナガキクイムシ（以下カシナガ）は、ナラ類やシイ・カシ類の樹木に穿入し、その穿孔内にラファエリア・クエルキボーラという糸状

菌（カビ）を発生させる。これが樹木の道管を目詰まりさせる原因となり、間もなく木は通水障害により葉を枯らす。

近年このナラ枯れ被害が大きくとらえられており、名古屋市内では2004年に猪高緑地で初見されて以来、今では東部丘陵の雑木林で普通に見られる状況となっている。

オアシスの森でも2005年には確認され、今回の調査でも51本の罹患木と、内5本の枯死木が確認された。7月下旬という時期から、今年の被害がこれですべてとは言い切れないが、いずれにせよ被害の拡大傾向は続いている。

カシナガ被害の特徴として、主に直径30cm以上の大径木が狙われ、比較的細い（若い）樹木は被害を受けても枯死まで至らないケースも多く、罹患木における枯死率は20%前後と考えられ、マツクイムシ被害のように全滅

するわけではない。また、1930年代に被害が確認されて以後、1980年まで散発的な発生で大発生には至っていないことなどから、今回の被害拡大は、かつて薪炭材であったコナラやアベマキ、アラカシなどが放置され高齢化・大径木化したことと深く関係しているようだ。以前のマツクイムシ被害から今回のカシナガ被害へと、放置が進む日本の里山林は未知の段階を迎えているのかも（真弓）



▲森の調査のようす

〔参考文献：ナラ枯れの被害をどう減らすかー里山林を守るためにー（独法）森林総合研究所関西支所〕

8月定例活動

クラフト・巣箱づくり



8月の定例活動は、雨が降ったりやんだりの中、相生小学校研修室で巣箱作りを行う。参加者は12名ほどで、野浪さんが用意して下さった材料で手慣れた人は手際よく作っていくが、巣箱作り初めての人は少し時間が掛かりました。

それでも昼までに予定の個数を作ることが出来ました。作った巣箱は後日防腐塗料を塗って完全に仕上げました。私自身は初めての巣箱作りの経験でしたが、作った巣箱に鳥が少しでも入っ

てくれることを願っています。

午後は竹で各自がマイ箸などを作りました。参加者の皆さん暑い中お疲れ様でした。

（森 勝）



▲新しい巣箱が完成！

特別活動 巣箱かけ

11月に入り、急に冷え込んでヤマハゼ類が美しい。ヒヨドリやウグイスなど様々な野鳥の鳴き声が混じり、心地よいにぎやかさ。参加者が少なく少々気落ちしているところへ、渡辺さんが息子さんと共に現れて、急に活気づいた。巣箱のかけ降ろしに、若い力は大変な戦力になる。

花の小径から散策エリアの間は、営巣に使われたものはなく、降ろすときに手応えを感じても、土バチやスズメ

バチに利用されていた。いのちの谷のものは巣一杯にスズメバチの巣が出来ていて、その造形の見事さに見惚れた。



稲田口でははじめての利用されたものに出会い、清掃した後、新しい物を2個追加、3個が並ぶ団地とした。雑木のエリアと小屋横のものも営巣され

ていた。シンボルツリー横のものは、即利用できるまでに完成されていたが、何かの都合で途中放棄していた。

初期と比べると、何となくシジュウカラの数が減っているように感じて、古澤先生に尋ねてみると、平針の方でも減っている様子。シジュウカラはたくさんの虫を食べて森を守ってくれています。せめて現状維持をしたいものです。まだ使える古い巣箱はそのまま残し、横に新しいものを掛けました。シジュウカラはどちらが好きなのか、来年の点検が楽しみです。（伊藤 晶）

9月定例活動

柴刈り大会・いのちの谷整備



「相生山にも**猿**が出たんだって！」
名古屋東南部に出没していた猿が相生
山緑地でもたびたび目撃され、くらぶ

員の阿部さんも集いの広場から見晴らし台へ行く途中で出会ったという。



猿注意の看板が掲示されたオアシスの森で、9月27日、恒例の柴刈り大会を行いました。このところ柴刈りと言うと、ヒサカキやウルシなどの除伐が定番でしたが、今年はカシナガ被害の防止対策としてコナラの萌芽更新をもっと当たり前にする意図で、コナラの除伐に取り組みました。カシナガ被害

害にあったり、他の木の影になり元気がないものや、ヤマザクラの成長の妨げになっているものなどを中心に各自手ノコギリで除伐を行いました。直径15cm程度のものは手ノコでも簡単に倒せるが、30cmほどになるとさすがに交代でノコを挽かないと息があがる。

切り倒したコナラは冬にしいたけのほだ木として使うために、定尺に切りそろえ林内の木陰に積んでおく。ほだ木に使えない太いものや枝葉は人と生き物との境界を分けるために積み上げる。切り倒した跡は、所々にギャップが出来、来年の萌芽や新しい植物の出現が期待され、充実した一日でした。(大館)

11月定例活動

竹林の整備



11月定例会は竹林管理です。前日の寒さから一転して暖かな日となり作業には絶好の日和となり、約10人の会員が作業に汗を流しました。

今回は小屋西の竹林の整備を行いました。この場所は私のお気に入り、

大きなヤマザクラがあります。

過去にも何回か整備をした場所ですが、時間の経過に伴い竹が繁茂して荒れてきていました。里山保全には終わりが無いことに、あらためて森くらぶの歴史を感じます。午前中の作業で現場は見違えるように綺麗になりました。



▲サツマイモの収穫のようす

昼休みには、河野さんが育てたサツマイモを焼き芋にして、皆で輪になって食べました。最近では作業の合間にち

よっとした交流があり、これも活動の楽しみになっています。

昼からは切り出した竹を炭の材料に整える作業を行いました。各自切り出した竹の整理や材料づくりに汗を流しました。竹を一定の長さに切りそろえ四分分割して節を取り除き整えた竹材は、天日干して炭焼きに備えます。

この時期の竹林管理は毎年の定例となっており、何も考えなくても体が動きます。私自身、森の仕事は生活の一部になっていることを改めて感じます。

なお、今回の材料で作る竹炭は、3月の萌木まつりに利用する予定です。炭火で焼いたシイタケ(これも自家製)を肴に、会員の皆さんと杯を交わすのも楽しみなことです。(村田)

12月定例活動

正月準備 & 梅の剪定



穏やかな日に恵まれ、森くらぶのメンバー10名、一般の飛び入りも10名を越えて、にぎやかな本年最後の定例会となりました。

門松作りにも慣れてきて、^{あうん}阿吽の呼吸で作業が進み、昼食前に立派な門松が出来上がりました。門松の前で全員で記念撮影をして昼食。午後はとんぼ池周りの梅の剪定と畑の拡張作業をしました。新メンバーの宮田さんはプロの腕前で、数年放置され、のび放題で無惨な姿の梅の木が、見違えるように

スッキリとなりました。春が楽しみです。

畑の拡張もはかどって、陽も通らず風通しも悪かった南斜面がすっきりと明るくなって、とんぼ池周辺の景色が“まさに里山”に変身しました。春にはカエルたちの楽園になるでしょう。

(伊藤 晶)



シリーズ『森の住人たち』②①

～アサギマダラ～ その4
—「ナゴヤKOK2」との再会—

アサギマダラ タテハチョウ科マダラチョウ亜科
 開長 10cm 分布 日本全土
 食草 キジョラン、カモメヅル、イケマなど

■ 標識情報 及び 再捕獲情報 ■

標識：10/11 ナゴヤ KOK2
 性別：♂
 標識日時：2007年10月11日
 標識地：名古屋市天白区相生山緑地
 標識者：近藤 記巳子
 備考：フジバカマ訪花。

↓
 標識：10/11 ナゴヤ KOK2
 性別：♂
 再捕獲日：2007年11月13日
 再捕獲地：沖縄県八重山郡竹富町
 小浜島大岳
 再捕獲者：喜舎場孫進・純子

2008年11/12、石垣島に行く。目的は、喜舎場夫妻と会うことと、「ナゴヤ」マークに再会すること。喜舎場さんは民宿を経営。八重山諸島はチョウの宝庫といわれ、その調査・研究、あるいは写真撮影などを目的に訪れる人の定宿だ。常連客からマーキング調査の実際を聞き、もとも

と山歩きが趣味だったので、面白いと思ってマーキングをはじめたとのこと。喜舎場さんは、昨年私が相生山緑地（名古屋市天白区）で「10/11 ナゴヤKOK2」とマークしたチョウを、小浜島で再捕獲してくださった方である。自宅を訪ねてそのお礼を伝えると、奥から小袋をもってみえた。

「これが「ナゴヤ」マークのアサギマダラ」

翅の文字は、確かに私が記したものの、マーキング時に確認した左後翅の小さな欠損がいとおいしい。名古屋を飛び立つときにはなかった右前翅の欠損と、文字の汚損が1800⁺の長旅の苦難を物語っていた。

喜舎場さんは、昨年約700頭にマーキングし、「ナゴヤ」マークを含めて5頭の再捕獲。その内容は、日光（栃

木県日光市）、ハズ（愛知県三ヶ根山）、アシズリ（高知県足摺岬）、キカイ（鹿児島県喜界島）、さまざまな地域から飛来している。石垣島にもマーキングポイントが複数あると聞かすが、なぜ小浜島なのか。自宅から往復2時間かけていく意味はなんだろう。

「小浜島にたくさんのアサギマダラがいると聞いて、去年初めて行った。70頭くらいマーキング。そのなかの1頭に「ナゴヤ」のもの。名古屋からだ!? ホントにびっくり。うれしかった!」

喜舎場さんとは、今回が初対面である。にもかかわらず旧知の間柄であるごとく、アサギマダラ談義を繰り広げることができた。今回アサギマダラの再捕獲されたことをきっかけに訪れたことは、予想以上に楽しく有意義だった。

(文責 自然案内人 近藤 記巳子)

Schedule

【定例活動予定】

集いの広場 10:00集合

2月28日(土) アカマツ林再生プロジェクト

3月28日(土) 第11回萌木まつり

4月25日(土) 総会 & 森の点検
 (以後の予定は、総会で決定します)

●●●●● 会員募集中! ●●●●●

このクラブは、相生山緑地オアシスの森を活動の場として、昆虫、鳥類を含めた、多様性のある森づくり、環境づくりなどのフィールドワークを行い、会員同士のふれあいや、オアシスの森を通じて地域の人との交流などを行う、楽しい集いです。

具体的な活動内容は

- ◆オアシスの森を訪れる人々に、自然観察の方法や楽しみ方を知ってもらえるよう案内する。
- ◆公園管理者と協力しながら、オアシスの森での植生管理作業を行う。
- ◆植物、野鳥や地形、地質、気象などの調査を行う。
- ◆柴刈りの大会や自然観察会などのイベントを適宜行う。
- ◆その他、目的を達成するために必要な事業を行う。

○会費は年間1,500円（保険料含む）です。主に連絡、郵送費です。
 ○振り込み先（郵便局） オアシスの森くらぶ 00860-7-33725

Information

【参加申込み・お問合せなど】

事務局

伊藤百寿人 052-895-8523

中島己治男 052-803-9534

【Eメール】

Mail address :

aioiyama-moriclub@mail.goo.ne.jp

★参加申し込み・お問い合わせなどをメールでも受け付けています。

★会員の皆さんへ・・・活動に関する各種の情報を提供するため、メールアドレスをお持ちの方はお知らせ下さい。

【ホームページ】

URL address :

http://f44.aaa.livedoor.jp

/~oasis/index.html

★ニュースレターのカラー版（PDFファイル）がダウンロードできます。

★定例活動・特別活動の報告や予告などを随時更新しています。

ホームページ管理・作成スタッフを募集しています!
 お手伝いいただける方、興味のある方、是非ご一報を!!